

2016 年度学位記授与式 卒業生代表挨拶

本日は、私たち卒業生のために、このような盛大な学位記授与式を挙げてくださり、誠にありがとうございます。また、ご多忙にもかかわらず、ご出席くださいましたご来賓の皆様、学長をはじめとする諸先生方、ならびに保護者の皆様、卒業生を代表して厚く御礼申し上げます。

私は、関西国際大学での四年間を通して、仲間の大切さと、学び続けることの重要性を学びました。これまでの人生において最も大きな教員採用試験という試練を、仲間がいたからこそ乗り越えることができました。前向きになったり、落ち込んだり、周りを羨ましく感じたり、様々な葛藤がありました。そのようなとき、一緒に勉強したり、叱咤激励の言葉をかけてくれたり、進路は違えども共に励まし合い、支え合ったりした仲間の存在が必要不可欠でした。関西国際大学に入学し、心から大切であると思える仲間に出逢えたことが、私にとって最も価値のあることだと感じています。

様々なことを学ぶなかで、自分の未熟さを感じる事が多くありました。私は子どもをより深く理解ができるように、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭の四つの資格を取得することを目指し、多くの実習にも行かせていただきました。大学での学びを生かして取り組もうとするのですが、うまくいかず、悩む日々が続きました。知識だけでなく、実際に現場を経験し、子どもとかわることで、学ぶことが多くありました。これからは教育には終わりが無いということをお忘れず、学び続ける姿勢を持ち続け、子どもから愛される教師になりたいです。

様々な出身地の仲間との出逢いや、グローバルスタディでの経験も、私にとってとても大きな財産となりました。地元について熱く語ってくれる友人の姿を見て、魅力的に感じると共に、新たな価値観や考え方に触れることができ、自分の考えや世界が広がるきっかけとなりました。また、相手の考えや思いを受け入れ、自分の考えを的確に表現し、意見を交えることの大切さを学びました。

入学当初から、学習面から進路まで支えてくださった諸先生方、大学生活の不安や心配について一緒に考えてくださった事務局職員の皆様、私たちのために先頭に立って道を開き、憧れであり目標となってくださった先輩方、ときには先輩として、ときには友達のように心を通わせた後輩、共に喜び、共に悲しみ、共に悩み、かけがえのない時間を共にした親友、自分たちのことを一番に理解してくれ、どんなときも寄り添い、心の支えになってくれた、愛する家族には、言葉に表すことができないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。

今日、私たちは関西国際大学を卒業します。新しい世界に飛び込んでいくことへの期待が大きい反面、不安もあります。そのようなときこそ、恩師や親友との出逢い、家族の愛情、大学での学びや経験を糧にして、どのようなときも成長に繋がると信じ、感謝の気持ちを忘れず、一步ずつ、自分らしく、前向きに歩いていきたいと思えます。

最後になりましたが、関西国際大学のますますのご発展を祈りつつ、お礼の言葉とさせていただきます。四年間本当にありがとうございました。

2017年3月14日

卒業生代表 教育学部 教育福祉学科 岸野なぎ